

出張報告（復命）書

- 1 件名 文教消防常任委員会 行政視察
- 2 日時 令和5年11月14日（火）～15日（水）
- 3 場所 東京都大田区、埼玉県熊谷市
- 4 報告 以下のとおり（資料別添）

【視察日】 令和6年11月14日（火）

【視察先】 東京都大田区

【調査項目】 大田区立御園中学校みらい学園中等部

【調査目的】

令和3年4月に開設した不登校特例校であり、旧・池上図書館2・3階にて開室した。学ぶ意欲はあるものの、大人数の教室が苦手など、在籍校への復帰が困難となっている生徒の新たな学びと成長の場であるみらい学園中等部を調査し、本市の取り組みの一助とする。

【調査の概要】

大田区において、大田区議会事務局の井石庶務調査担当から挨拶の後、大田区教育委員会事務局教育総務部指導課の原口指導主事から施設の案内があり、その後、大田区不登校対策アクションプランの説明を受け、質問応答を行った。

【調査内容】

太田区の令和4年度における不登校児童生徒総数は約1,300名で増加傾向にある。小学校での不登校率は1.85%で、中学校では6.5%である。小学生は東京都や全国とほぼ同じ水準だが、中学生は東京都や全国より若干高い数値である。不登校対策だが、まず中学校には不登校支援コーディネーター、小学校には不登校対策推進担当教諭が対策に当たっている。そういった教員の負担を軽減するために、登校支援コーディネーターの講師や、学校外の民間施設の連絡会の実施等を行っている。

みらい学園の正式名称だが、大田区立不登校特例校分教室大田区立御園中学校みらい学園中部で、不登校特例校であることを特に強調する必要がない場合については略称として御園中学校みらい学園中等部と呼んでいる。設置の経緯と目的だが、経緯は令和3年度に全中学校の特別支援教室の設置に伴いサポートルームの廃止となる情緒障害等

通級指導学級の受け皿として設立された。なぜ御園中学校の分教室として開校したかだが、御園中学校に女子障害等通級指導学級があったからである。

学びの多様化学校については、特別の配慮を要する生徒の実態に配慮した教育を実施するため、特別な教育課程を編成できる、文部科学省に認められた教育課程特例校の位置付けである。また、ここは学校なので、正規の教員が3名配置されており、学習指導要領の内容を適切に取り扱っている。分教室というのは一般的に分離したの建物の一部を使用して設置する教室であり、みらい学園は区の施設を使って分教室として使用している。この場所になった理由だが、池上図書館を使用しなくなるので、そこに何とか滑り込むような形で設置した。

他の機関との違いだが、同じ建物の1階にある教育支援センターつばさ教室の違いで言えば、つばさ教室はもともと子どもたちが通うはずだった在籍校への復学を目的としているが、みらい学園は復学を目的としておらず、この学校に通う形になり、御園中学校の卒業生として卒業証書も発行される。また、フリースクールでは子どもたちが実際にその施設に行くと、その日に何をするかは施設にいる人と一緒に決めていると聞いているが、ここはそうではなく教育課程が明確に定められているので、指導計画に則った時間割で授業を受ける形になる。

みらい学園の特色だが、まず授業時数が配慮されており、中学校では1015時間の標準授業時数が定められているが、みらい学園では980時間である。35時間の削減はどのように行ったかだが、総合的な学習の時間と特別活動を合わせた形で行うキャリア教育を行うことによって35時間の削減になっており、各教科の時間は1時間も削っていない。また登校時間についても午前9時となっている。これには3つの理由があり、まずはあえて遅くすることで、まわりの中学校の生徒と顔を合わせないようにすること。2つ目に、子どもの中には生活リズムが崩れて昼夜逆転の生活をしている子もいるので、少しでも朝の登校時間を遅らせることによって登校しやすくする。3つ目として、近年増えている起立性調節障害等の生徒のためである。

時間割だが、午前は3時間、午後は2時間であり、980時間には足りないが、個別学習の時間があり、5時間目が終了した後、3時から25分間、本人の進捗状況に合わせて実施している。これは不登校になった時期は子どもによって違うため、個々の学習の進捗がずれていることに対処するためである。

対象生徒は、大田区立中学校に在籍しており、文部科学省が定める不登校の定義——心理的に不安の傾向等があり連続または継続して30日以上欠席した不登校生徒、そして分教室入退室検討委員会が認めることである。定員だが各学年8名で合計24名となっているが、2年生と3年生については定員を超過している状態であり、現状で25名いるので、定員超の状況である。また通学は、公共交通機関での登校をお願いしている。昼食については給食ではなく、弁当を持参する形を取っている。服装について制服規定はない。部活動については、御園中学校の部活動に参加することはできるが、過去3年間部活動に参加した生徒はいない。

本事業に係る予算等だが、一番大きいものが施設の改修工事である。それ以外にも様々なものをそろえなければならないが、お金がない中で工夫して行っている。例えば

机は福祉施設の閉鎖に伴って流用していたり、自転車やテレビ等についても他の施設から持ってきたものもある。東京都の補助は2分の1まで受けているが、国の補助は一切出していない。

成果と課題だが、みらい学園中等部に在籍している多くの生徒が不登校状態から改善した。これは在籍している87.2%が不登校状態ではなくなったということである。子どもたちの意見として、少人数指導だから丁寧に学習を見てもらえることや、同じ境遇の仲間だから気持ちを理解してもらえるとといった意見もあった。課題だが、定員を超える希望者への対応であり、1300人という不登校の児童・生徒に対して24人という受皿は余りにも小さいものだと認識しているが、キャパシティを増やすことができないジレンマも抱えている。

【主な質問・応答】

質問 不登校特例校の教育課程は、もっと自由にできるのと思っていた。しかし、実際には中学校の教育課程を終わらせるとなっているが、これはなぜか。

応答 通常の区立中学校と同じように内申書を出すことができ、成績をつけることができるというメリットがある。

質問 修学旅行は最大で3回行けるとのことだが、金沢であれば1回あたり6万円ぐらいかかるが、保護者の負担は大きくなるか。

応答 修学旅行という認識ではなく、移動教室である。体験費用は各家庭に払ってもらうが、実際には毎回5000円ぐらいの負担で行っている。

質問 3名の先生が配置されているが、どのような基準で選ばれているのか。

応答 1人は教育委員会で指導主事をしており、設置にも関わった教育課程に精通している先生が一人。それ以外は、まっさらな気持ちで、同じ方向を向いて仕事をするために新任の先生をお願いしている。

質問 家庭に対して、特色を持ったフォローをしているのか。

応答 朝来ないケースでは、実際に家庭訪問をしたり、面談も学期に1回必ず行なっているため、面談の回数は多い。

質問 フリースクールもある中で、不登校特例校を作る意義は何か。

応答 フリースクールは評価評定がつかないが、不登校特例校はつけられるため、次の進学先の選択肢が広がる。

【視察日】 令和5年11月15日（水）

【視察先】 埼玉県熊谷市

【調査項目】 熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」

【調査目的】

旧熊谷市立女子高等学校の施設を有効活用し、子どもから高齢者までの幅広い世代の市民が、生涯にわたってスポーツ・文化に親しむことのできる合宿や研修による宿泊も可能な生涯学習センターであるくまびあを調査し、本市の取り組みの一助とする。

【調査の概要】

くまびあにおいて、熊谷市議会事務局の久保田次長の挨拶の後、熊谷市教育委員会社会教育課の原課長と倉田主任から調査項目についての説明を受け、質問・応答を行った。

【調査内容】

この施設の前身は昭和38年に開校された熊谷市女子高等学校で、平成12年頃から入学者のいない状況が続き、平成20年3月に閉校となった。以降、私立中高一貫校教育校の誘致活動を行うも、うまくいかなかった。また、平成20年秋以降に経済状況が悪化したことで一層誘致が困難になり、私立の中高一貫校教育校の誘致を断念し、新たな跡地の活用方法を市内で検討することになった。施設の有効活用について検討委員会を設置し、活用方針、子どもからお年寄りまで幅広い世代の市民が生涯にわたってスポーツや文化活動を楽しむことができる生涯学習センターを段階的に整備していくとした。利用しやすい施設整備の工夫として、利用構想策定後や基本設計後に、文化、スポーツ関係の団体に説明、意見、要望の聴取を行った。

総額で24億円を超える費用を要し、第1期工事を平成24年度から25年度、第2期工事を平成26年度、第3期工事を平成28年度に実施し、施設の耐震改修工事、エレベーター設置やグラウンドの人工芝生化などを行った。

第1期工事では、総合管理棟・練習棟には、子育て中の親子の交流の場であり、子育て支援拠点となっている親子ふれあいルーム、ミニコンサートや楽器の個人練習ができる機能を備えた部屋を4室、料理講習室、パソコン学習室、囲碁や書道などが開催される多目的ルームなどがある。体育館はアリーナ、卓球場、柔・剣道場などの活動スペースで大規模な改修はしていないが、男子用の更衣室、シャワー室、トイレの設置といった共有スペースの改修を行った。宿泊棟のうち、東棟の整備を第1期工事に行い、最大37人の合宿等の宿泊を受け入れている。

第2期工事は創作展示棟であり、1階に増設展示の部屋が3室あり、熊谷空襲を伝える平和資料展示室、熊谷のスポーツ「いま、むかし」館、熊谷市の伝統産業である熊谷染の体験ができる熊谷伝統産業伝承室等がある。第2期工事の中で、スポーツ系では、サッカー用の夜間照明の追加や人工芝グラウンド、夜間照明のついた人工芝のテニスコート、ソフトボールやグラウンドゴルフが行える多目的グラウンドが整備された。

第3期整備だが、LL教室、視聴覚ホール、63人が利用できる宿泊と西棟として改修した。その結果、東館と合わせ100名まで泊まれることとなった。また同時に東棟と西

棟をつなぐところにエレベーター等が増築された。そして令和5年2月にはオンライン会議や大会等のライブ配信ができるよう、利用者用の無線LAN整備を行った。

多目的グラウンド、体育館、学習施設は、午前・午後・夜間の3区分で貸出しを行っている。人工芝グラウンドとテニスコートは1時間単位で貸し出している。宿泊施設は、チェックインが15時から、チェックアウトは10時である。休館日は、毎月第2火曜日の年末年始である。管理体制は、平成25年から平成29年の3月までの整備期間中は、教育委員会で管理運営しており、整備終了後の平成29年4月から指定管理者制度を導入し、令和2年3月までの3年間で、アイル・オーエンスグループが管理運営を行っている。また、令和2年4月から令和7年3月までの5年間についても、引き続きアイル・オーエンスグループにお願いしている。

施設の利用状況だが、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年までは、利用者数が上昇傾向にあったが、令和2年度は施設の休館、利用制限等の影響で大幅に減少した。しかし、制限緩和後は、コロナ禍前の利用者数に回復している。

【主な質問・応答】

質問 繁忙期や閑散期はあると思うが、忙しいのはどの季節なのか。

応答 学校の長期休みに合わせた利用が多く、7月や8月、12月後半が忙しく、次に多いのは春休みの3月後半である。

質問 手数料を減免する取組はあるのか。

応答 登録団体に対して減免措置を取っており、減免額は2分の1である。逆に市外の利用者については1.5倍の料金を取っているし、営利利用の場合も1.5倍である。市外の営利利用の場合には、1.5倍×1.5倍で2.25倍となっている。

質問 申込方法はどのようになっているのか。

応答 熊谷市の公共施設予約システムで予約することができ、電話でも予約できるようになっている。

質問 広い施設だが、職員は平均で何人くらいいるのか。

応答 総勢現在46名の職員が勤務しており、シフトを組んで勤務している。

質問 ここは市立の高等学校だったと思うが、ここ以外に市立の高等学校はあるのか。

応答 市立の高等学校はここだけで、現在熊谷市には市立高校は1校もない。

質問 全国的に少子化で小学校や中学校の跡地利用が問題になっているが、熊谷市でもそうなのか。

応答 そのとおりであり、これかもたくさん出てくる。今は郊外の小学校が統廃合により、跡地利用が問題になっている。

質問 今後、跡地利用を考える際に、教育委員会だけでは収まらないと思うが、そのあたりはどうなっているのか。

応答 市役所に施設マネジメント課があり、そこが主導して跡地利用を議論している。

以上